

平成30年度 第1回 学校関係者評価委員会記録

日時 平成30年7月17日（火）15:30～16:45

場所 本校会議室

1 開会の言葉

2 校長挨拶

本校もクールビズを実施し、7月上旬からは、暑さ対策の一環として生徒も半そで短パンで授業を受けている。年2回の評価委員会で、様々な視点でご意見を頂きたい。学校概況としては、現1年生で、初めて生徒数が男女比1:1となった。応援団も2年連続で女子生徒も務めることになった。部活動では、登山部女子を始め、各部とも大活躍をしている。野球部は100回記念大会で残念ながら初戦敗退となった。SGHでは、海外派遣事業を経費削減等の理由によりボストンから台湾へ変えた。

3 委嘱状交付（学校評議委員）

4 自己紹介

5 学校概況報告

（1）学習に関すること（教務課長）

資料p3学習指導（4）が向上H28D→H29A。宿題の量は適正であると判断している。（9）基礎力調査はH2888%→H2985%へダウン。数学英語は正答率が高いが、国語が低い。特に漢字・慣用句の正答率が低い。

（2）進路指導に関すること（進路指導課長）

自ら学ぶ姿勢と課題を与えすぎない指導を教職員で共有している。SGUへの進学が71人（H28）→55人（H29）へ減った。原因としては、早稲田大・慶応大の私立大学の合格定員数の厳格化によるものであり、先生方の指導によるものではない。医学科も人気学科であるが本校は大健闘している。多種多様な生徒の進路希望も叶えている。たとえば美容専門学校への進学、芸術大学への進学への支援を行った。

（3）生徒指導に関すること（生徒指導課長）

5つの柱で指導している。1、基本的な生活習慣の確立 2、部活動・生徒会活動を一生懸命やる 3、いじめ防止（地域保護者と連携をしている、年5回のいじめアンケート） 4、情報モラル（スマホの使い方指導） 5、交通安全（年3回の街頭指導、自転車事故現在5件）

担任が昼休みに面談を行うなどよく指導している。保護者アンケートで「先生が生徒の話を良く聞いている」が生徒の数値より10%も低いのが気になる。

（4）健康安全指導に関すること（厚生課長）

年に数回保健講話を実施し、主体的に健康的な生活ができるように指導している。大掃除を通じて環境美化にも意識を向けるよう努めている。

(5) 学年概況

1 学年長：出席は良好である。220名ほどが皆勤である。外部の企画にも積極的に参加する生徒が多い。学年集会で、朝学習に全員が揃うことを伝えた。夏休みにはSGHのフィールドワークを行い、白聖祭で発表する。12月の研修旅行につなげていきたい。

2 学年長：数名が不登校である。学習姿勢は良好である。学年集会では、生活のことと学校のリーダーとして活躍して欲しいことを伝えた。夏休み後、上位者指導をスタートさせる。73名が赤門倶楽部に入った。成績不振者の補習も面談期間中に実施した。入学時から「盛岡一高を楽しめ」と言いつづけている。

3 学年長：ほとんどの生徒が部活動を引退した。入学時より上位と下位の成績の開きがある学年であり、これ以上開かないように指導している。数名の不登校がいる。10月あたりから受験のストレスにより、不登校が増えるかもしれないので、おおらかな気持ちを持つことも伝えたい。学年集会では、仲間と一緒に受験生活を乗り越えるようにと伝えた。

6 意見交換

評議員A：一高の先生方は本当がんばっていると思う。しかし先生にゆとりがないと生徒に伝わる。そのような状態はとても心配である。また、大雨の災害や韓国の沈没事故のようなことを含め、生徒に「生き延びる」ということを伝えて欲しい。

副校長：1ヶ月の残業時間が80時間を超える教員がいる。多忙化解消の取り組みは、3年間のアクションプランと数値目標を出すことになっている。実効性のあるものにしていきたい。

総務主任：「生き延びる」という指導では、本校はシェイクアウトを始め、各種防災教育を行っている。

評議員B：観点別評価について、よくわからないことがある。評価方法を教えて欲しい。

教務課長：考查点だけの評価ではなく、普段の授業での活動や課題の提出状況なども含めて評価している。

評議員B：課された課題とは違うものを出しても評価されるのか。

教務課長：別なものを提出することは、教科担当の意図ではないと思われるので、評価対象にはならない。

1 学年長：1年生の数学では、課題についてのアンケートを取った。課題を指示されたい人半分。自由にやりたい人半分だったので、両方に対応できる課題を出している。

評議員C：学年によって課題の出し方が違うのか。

2 学年長：2学年では、国語英語は、1か月分を指示している。数学は毎週出しており、自分のレベルを選ぶようになっている。

評議員D：中小企業の立場から言わせてもらおうと、岩手に戻ってこないのが残念である。起業する人もいない。「郷土に戻ってきて貢献する」そのような取り組みもあってもいい。

SGH主任：SGH活動は、ふさわしい取り組みだと思う。活動を通じて、大人とやり取りをし、企業家と話し合うことで、いろいろなことを学ぶ。また、盛岡市の地域課題においても現場を知ることで、初めて知ることがある。地域貢献の生徒を育てていると思う。

評議員E：学習の到達度に関して、漢字が書けないということは問題である。小学校・中学校でも白紙になっている。文章も書けないようだが、そこはどうなっているのか。

教務課長：スタディーサポートでは、文章の読み取りの正答率が低い。本校では、国語英語で文章を書かせる指導して鍛えている。

校長：貴重なご意見ありがとうございます。「週末課題」については、教科担当がつけてもらいたい学力を見据えているので、ある程度縛りが必要だと思う。「基礎力調査」では、無回答は岩手県、全国的な問題である。「地元に戻ってこない」という問題では、進学校のキャリア教育はどうなっているのかと問われるが、本校は、全国、世界で活躍する生徒も輩出しているので難しいが、世界や全国から岩手を支えることも地元貢献の一つだと思う。「生き延びる」という話題では、命が一番だと思っている。何をにおいてもこれがすべてであると思っている。最後に、この短時間で評価委員の方々が、先生方にゆとりがないと感じられていることは好ましいことではないと思っている。ゆとりが感じられるように学校経営に努めたい。

7 その他

8 閉会の言葉